

大崎市



ほやなぎかぐら
保柳神楽

保柳神楽は、古老の言い伝えによると約450年前保柳の館主であった保柳内記主計が民衆に舞わせたのが始まりと言われていますが、定かではありません。現在の保柳神楽に形成されたのは、明治時代の初め、当時の神楽連中が、千葉清四郎等を主として南部から来た三太藤助という人に師事して、南部本流神楽となつてからで、さらに5代目千葉平之丞が師となつて栗原郡下で盛んであつた迫系統の神楽を一部とり入れて保柳神楽にセリフ神楽的な面も加わり、躍動的な舞に淡い情緒も伴い、鎮守熊野神社の付属神楽として地域に根差した芸能として守り育てられてきました。

昭和49年に旧古川市無形民俗文化財、平成18年に大崎市無形民俗文化財に指定されています。

